

文献センター通信

第 12 号
2009 年 11 月 20 日
一部 100 円

主な内容

夏の富士宮交流会を開催	1
富士宮だより	2
文献センター自己紹介	9
渡辺政太郎・若林ヤヨの墓	3
藤本文庫・目録	4
(完)	5
カレンダー販売中	7
	8

恒例の夏・秋の富士宮交流会、第5回となる今年は8月29〜30日に行いました。

日程が決まるのが遅くなり、告知がぎりぎりになったにもかかわらず、関西からの参加者も含め予定通り開催することができました。

龍さんの元気をもらい、夜には酒も入った集まりです。

29日。前日に会場・ふもとの家に到着した会員は朝から、センター内で文献の整理を行っていました。昼すぎから参加者が続々到着し、作業を分担して夕食の支度（買い出し、調理、テーブル設定）と文献整理作業などを実施。夕食後は、故・横倉さんの8

第5回 富士宮交流会を開催 — 8月29・30日 —

ミリフィルムの上映会を行いました。当初はプロジェクターでスクリーンに映し出す予定でしたが間に合わず、液晶モニターに映し出していたので、押せ押せになってしまいました。

モニターの映し出される場面に、「おーっ」「へえー」などと声がかかり、巻き戻したり早送りをしたり、酒も入って盛り上がりました。次回の富士宮での交流会に、会員の皆様の参加をお願いします。

30日。前日に引き続き、文献の整理とデータベースへの新規入力を行いました。

解散は、三々五々となり、昼すぎには全員がふもとの家を離れました。

2010年は告知を早めること、具体的な作業内容も決めておく方がよいとも改めて反省しまし

(文責 佐藤)



富士宮だより

8月29日〜30日の交流集会の折、ミニコミの入ったダンボール箱を開けて整理を始めたのがきっかけとなって、それら「開かずのダンボール箱」を片づけて何とか整理作業に区切りをつけたいと考えるようになった。

単行本はダブリ分を書庫から出して別置きとしたことで、かなりすっきりと全体が見わたせるようになって整理がはかどったという経緯があるが、ミニコミ類と外国語資料はダンボール箱のまま、一部はそこからすらはみ出して積まれたままの手つかず状態であった。

本棚以外のスペースは所狭しとばかりにダンボール箱が押し込まれていたり、積み重ねられたりで見苦しいばかりの惨状が永く放置

されていた。何とかしなくてはと思いつつも、その圧倒的な物量に圧倒されて、挑戦する気力は萎えただけであった。

しかし単行本の目録が一段落したとなると、この難題に立ち向かわなくてはならなくなり、そのきっかけを8月に何とか掴んだのを好機に一歩進めたいと考え始めたのである。そして10月の3日〜6日の間、富士宮に出かけることにした。土・日に休みを2日加え、5日〜6日には書庫内の事情に最も精通している那須の山田君が合流した。

最大の成果は、全てのダンボール箱、正確な数字は確認しなかったが40箱ほどを全て開けて内容を確認したことである。現状を知っている人には、これがいかに大変な仕事であるか分かってもらえよう。もちろん、ミニコミと欧文の雑誌・新聞・冊子資料の整理も、どうであろうか半数以上は片づけ

られた。整理といっても最終的なファイリングではなく、まとめられる資料はまとめ、その他まとめられないものは雑資料として一括するといった段階である。でもこれは整理作業の端緒であり、その流れを形づくる重要な着手点である。

今回の作業設定の発端は、山田君が10月に富士山にキノコ採りに出かけるために休みをとるということにあつた。それに合わせて作業の日取りを決めた次第なので、当然キノコが影の主役であつて、4日夜に那須を出発した山田君は5日早朝、麓で3時間の仮眠をとつて午前中はキノコ狩り（もちろん、午後からはダンボール箱と格闘のハードスケジュール）。前日が土・日であつたことから、近場はすでに採り尽くされ、奥へ奥へと果敢に分け入つたとのことである。その努力の甲斐あつて、5日の夕食はキノコ汁、おすそ分け

アナキズム文献センター

会員を募集!

文献センターの活動の実質化を図るべく、当面は会員制のもとで活動・体制づくりを進めています。参加を広く呼びかけています。

皆様の積極的な参加をお願いします。会費は年間一口一〇〇〇円としていますが、可能であれば複数口でお願いいたします。

もしつかりとありました。

かくして食あり、仕事の進展ありの有意義な日々であつたことを報告します。もつとも私は作業で坐りつづけていたので腰の痛みが1〜2日残ることになりました。あと2〜3回くり返すと、書庫は見違えるようになるでしょう。

(奥沢)



文献センター 自己紹介 9

まず、(バルタイ系)、アナキ

ズム系、無党派、ノンポリ系と大きく大別する。三人でそれぞれ段ボールの中から資料をとり出して分類する。大体そこまですべて一日終わり夕刻より自炊の

為、山荘へ移動する。本日より自炊開始。夜、ロシア・スープ。

七月四日(水)三名。ハトロン紙袋を買い求め、ミニコミ類をグループ別に袋につめる。段ボール八箱のものを袋に表書きし、同グループのものを集めて入れてゆくという作業をくり返す。夜、カレーライス。

七月五日(木)六名。東京より奥沢、戸駒それに平岡さん来る。前日と同内容の作業続行。そろそろ疲労がでてくる。

七月六日(金)十一名。昼間作業

を少ししてから、稲子へ行く。離村した部落。暑い。夜、向井孝、竜武一郎、平岡氏を迎え、パーベキュー、プラスますの鉄板焼を食べる。

七月七日(土)二四名。三時までセンターの整理を続行し、それより沼津の山鹿文庫へ行く。夜、非暴力直接行動トレーニングを行う。

七月八日(日)七名。パンフ、ピラ整理続行。今回のキャンプの峠は超したが、かなり残りそうである。夜、今回の事について反省と今後の活動計画、当面する課題等について話す。

七月九日(月)残務整理。参加人員は延べ六〇名を数えた。仕事は、単行本関係が全て整理完了(一五〇冊)。その他のミニコミ、ピラ、パンフの類については、袋に同種のものを入しアイウエオ順にその袋をわけるという所まで八〇%終えた。この点

に関しては、やっているうちにその整理の方法を発見し、より簡略化したということ、即ち整理の方法をある程度確立しえたという点において大きく評価されるべきだろうと思う。従って、当初の過大な計画(全完了)に比しても、七〇〜八〇%の達成をなしえたといつてよい。(中村記)

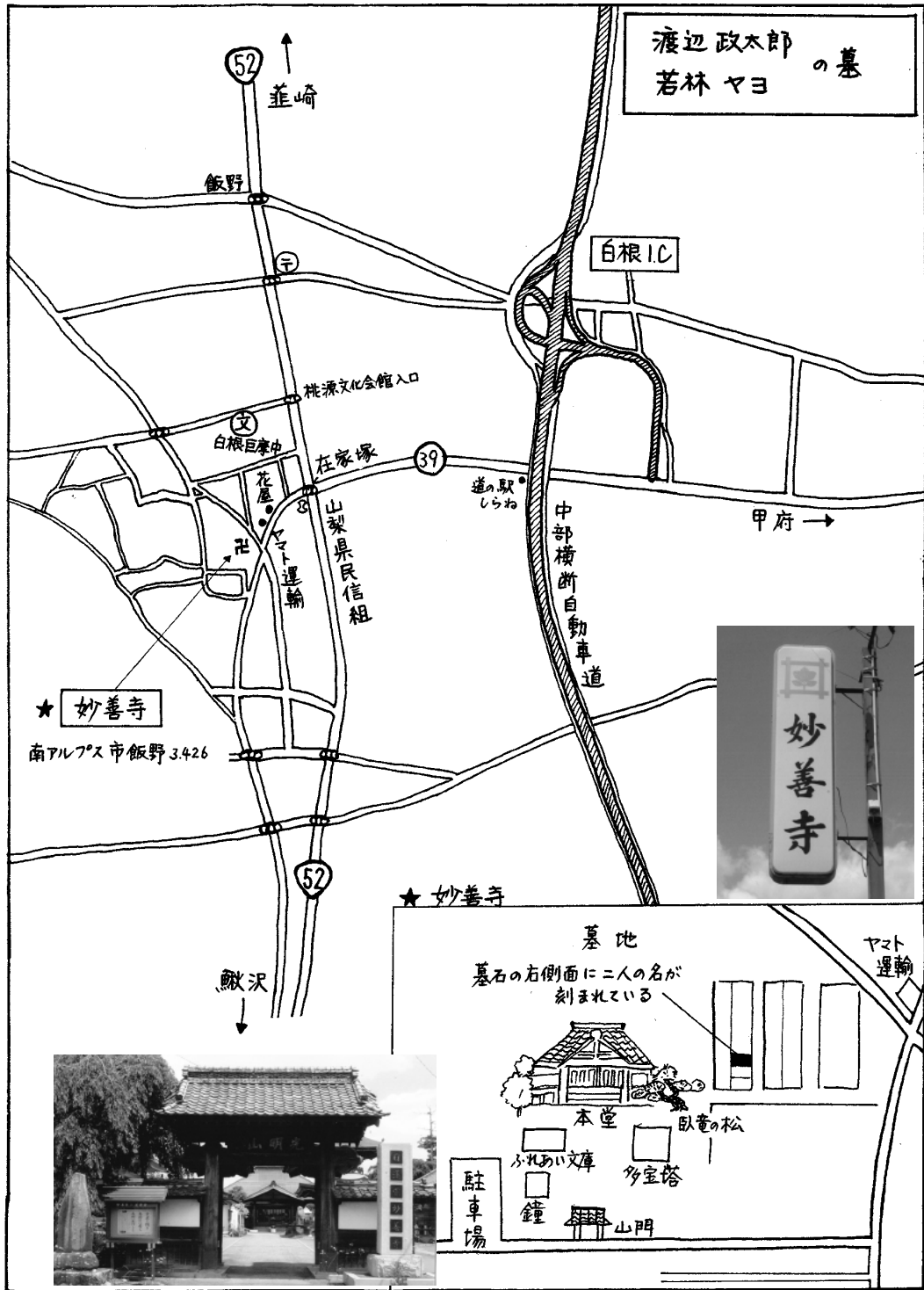
準備を入れて10日にわたる夏のキャンプであった。通して受入れに携わったのは報告者の中村隆司で、当時は既に富士宮に移り住んでいたのではない。延べ60人、最大24人で、しかも富士宮のふもとの家だけではなく、稲子(いなが)から沼津まであちこち移動しているのだから、元気なものである。いくつかの断片では思い出されるが、ほとんど記憶からは抜け落ちてしまっている。

補足までに記しておく、稲子は龍さんが関わりをつくった富士

川上流の地で、奥沢の友人・河合鈴夫が離村した部落の一農家に移り住んだ。そこをキャンプ地にしたもので、翌年か翌々年はその家でキャンプを実施している。沼津の山鹿文庫は、山鹿泰治が亡くなったあとミカさんが移り住んだ沼津の三津(長女・アイノさんの嫁ぎ先)に設けられた山鹿さんの旧蔵書の文庫。後述するが向井孝が中心となって蔵書の整理を進めていた。

夏のワーク・キャンプは、71年に書庫建設、72年は蔵書(単行本)の整理と続き、73年の夏のキャンプは、遅々としてはかどらなかつた雑誌、ミニコミ等の定期刊行物の整理を目的として企てられた。五月の末にこのキャンプが設定され、六月に入ってから準備が始められた。その過程で、セミナーの企画が追加された。

(続く)



(6 頁より続く)

貌 第 2 号		貌の会
貌 第 3 号		貌の会
貌 第 4 号		貌の会
貌 第 6 号		貌の会
貌 第 7 号		貌の会
幻野 第 5 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 7 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 8 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 9 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 10 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 11 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 12 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 18 号	幻野の会 (編)	幻野工房
幻野 第 24 号	幻野の会 (編)	幻野工房

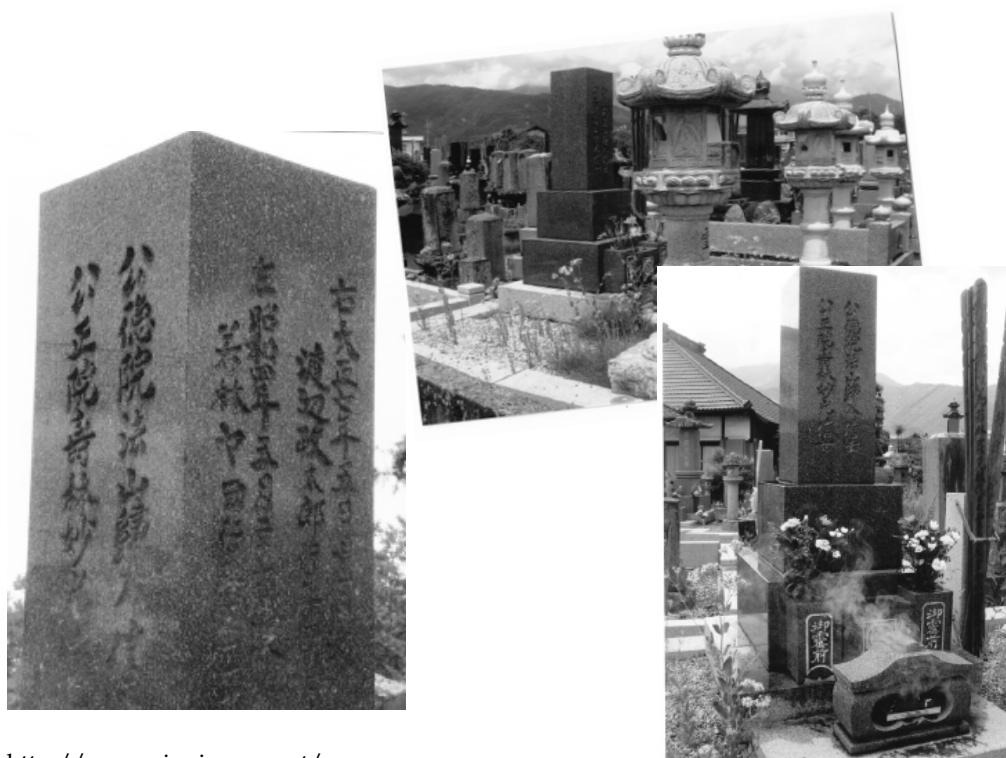
面白半分 12 月臨時増刊号 「四畳半襖の下張」 裁判証言全記録◎その 2

株式会社面白半分

面白半分 4 月臨時増刊号 緊急特集 「四畳半襖の下張」 裁判

株式会社面白半分

(完)



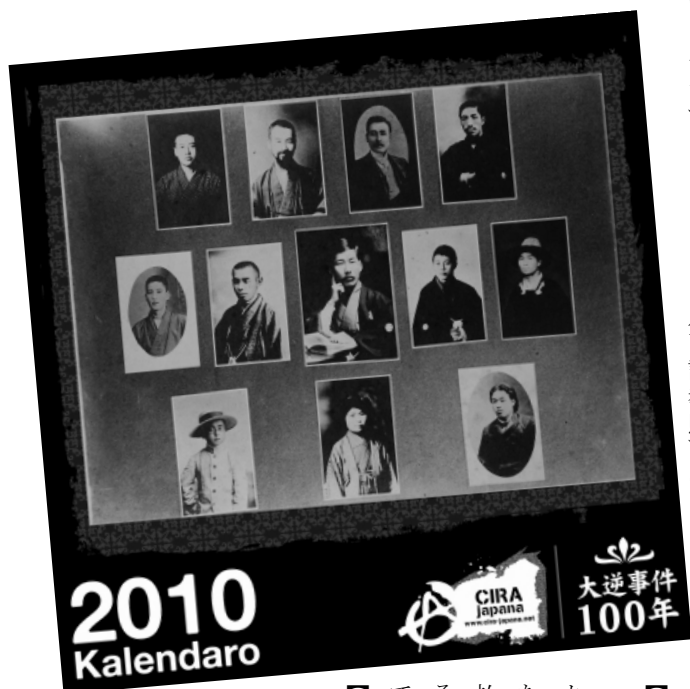
勝利のための統一の心	松川運動から学ぶ	小沢三千雄	暁民社
新日本プロレタリア詩集	井上光晴 (編)		九州評論社
突然變異説批判	永井良一		
除名取消要請書 附一、経過報告書 二、意見書集 (別冊)	神山茂夫		
意見書集	除名取消要請書添付資料	神山茂夫	
働く青年の人生観	神山茂夫		神山茂夫後援会
民同派労働組合論批判	神山茂夫		日本共産党中央委員会教育宣伝部
人民的民主主義の諸問題	神山茂夫		同友社
神山茂夫を中心とする年表	1950 ~ 1954		
その日の人民広場	メーデー事件の真相	メーデー事件被告団 (編)	駿台社
検事論告を衝く	論告公判熱闘の記録	メーデー事件被告団	メーデー事件被告団
弾丸は証言する	白鳥事件		白鳥事件中央対策協議会準備会
鹿地事件	米謀略機関の犯罪	鹿地事件対策世話人会 (編)	鹿地事件対策世話人会
つくられた騒擾罪	大須事件	その真相と 11 年の闘い	七・七大須事件被告団
牟礼事件の真相	こんな裁判で死刑にされてはたまらない		牟礼事件懇談会
新暴力法	新暴力法反対法律家協議会 (編)		労働旬報社
正義と真実のために	青梅事件の真相		青梅事件対策協議会
爆破されたレール	芦別事件	芦別事件対策委員会 (編)	芦別事件対策委員会
これが小笠原だ!	島の現状と歴史		沖繩・小笠原返還同盟
無実の死刑囚	松山事件	事件とその真相	松山事件対策協議会
死刑囚	松山事件シリーズ No. 1	事件とその真相	松山事件対策協議会
下山事件における謀略性	佐藤一		占領期調査会
平沢貞通氏は真犯人ではない	帝銀事件の真相	森川哲郎 (編)	平沢貞通氏を救う会
再審	平沢貞通氏を救う会 (編)		平沢貞通氏を救う会
失業と貧乏をなくすために			全日本自由労働組合
在日朝鮮人の民主主義的民族教育		在日朝鮮人の人権を守る会 (編)	
			在日朝鮮人の人権を守る会出版局
選挙干渉・弾圧とどう闘うか	選挙活動の自由を守るために		日本国民救援会 (編)
			日本国民救援会
吹田無罪判決 (要旨)	デモ・集会の自由は守られた		吹田事件被告団
最高裁判決粉碎	スト権奪還	公労協弾圧対策委員会 (編)	労働旬報社
何が被害を大きくしたか	新潟地震現地調査報告	中央民主団体災害対策会議 (編)	
			中央民主団体災害対策会議
檜山義介 追悼集	日本の救援活動を闘いつづけた		檜山義介追悼集会実行委員会
コスモス (通巻 65 号)	中野重治記念		コスモス社
貌 創刊号			貌の会

(5 頁に続く)

藤本文庫・目録（第7回－最終回）

告別（佐藤ふみさんを送る）			“佐藤ふみさん告別の会”運営委
三重のいしぶみ			第五回解放運動無名戦士合祀祭実
日本資本主義発達史講座	全 7 巻別冊 2	刊行 5 0 周年記念《復刻》	
	大塚金之助／野呂榮太郎／平野義太郎／山田盛太郎（編輯）		岩波書店
赤間被告の自白	松川事件資料集 No. 2	松川事件資料集刊行会（編）	
			松川事件資料集刊行会
太田自白とその解剖	松川事件資料集 No. 5	松川事件資料集刊行会（編）	
			松川事件資料集刊行会
目で見ると松川事件	赤間自白を中心として	川村豊（編）	愛知松川事件対策協議会
松川事件 政治講談	赤間自白の巻	大谷竹山	苺書房
法律はいかにまげられたか	松川シリーズ No. 1		松川事件対策協議会
諏訪メモ	松川シリーズ No. 2	官憲の証拠隠滅	松川事件対策協議会
真犯人は誰か	松川シリーズ No. 3		松川事件対策協議会
最高裁判決	松川シリーズ No. 4	その解説と批判	松川事件対策協議会
証拠品はかたる	松川シリーズ No. 5	国鉄労組現地調査報告	
			松川事件対策協議会
作られた証言	松川シリーズ No. 6	松川事件差戻裁判の問題点	
			松川事件対策協議会
闇に消えた九人	松川シリーズ No. 7	11年目の証言	
	東京松懇特別調査班（編）		松川事件対策協議会
しくまれた松川事件とその裁判	松川シリーズ No. 8		松川事件対策協議会
松川無罪判決	松川シリーズ No. 9	要旨全文	松川事件対策協議会
松川をしくだ黒い召使い	松川シリーズ No. 10		松川事件対策協議会
真犯人は誰か	松川シリーズ No. 11	東京松懇特別調査班（編）	
			松川事件対策協議会
松川事件この十三年	松川シリーズ No. 12	検事上告の真相	松川事件対策協議会
松川事件 真実の勝利のために			松川事件対策協議会
目で見ると松川事件			松川事件対策協議会
世にも不思議な松川事件			松川事件対策委員会
松川事件の事実問題	調査の手びき		松川事件対策協議会
謀略・スパイ・破壊	米日機関の手口と背景	日本機関紙協会兵庫支部（編著）	
			松川事件対策協議会
松川事件の法律問題	事件受理申立理由書・第二審判決理由書・松川事件報告書要旨		
			松川事件対策委員会

2010年版カレンダー 販売中



2010年版のカレンダーが完成いたしました。前号でお知らせした判型を変更し、LPサイズ(30cm×30cm)、全28ページになりました。

テーマは、『大逆事件 一〇〇年』です。

先行予約は、終了しましたが、まだ在庫はございます。

価格●1部1200円+送料等
300円(10部以上ご注文時は送料等はアナキズム文献センター負担)

企画・制作●アナキズム文献センター

注文方法●
①郵便振替 A文献センター口座
(下記参照)に、

カレンダーの部数、送付先を記入してお支払ください。

②ホームページ 文献センターホームページの申し込み画面から必要事項を記入のうえ、送信してください。カレンダーに同封した振替用紙にてお支払ください。

【センター会員の方】

会員の方、また支援者の方にはカレンダーを1部、お送りしました。この分に関しては、お支払いの必要はございません。もちろん、新たな購入、カンパはいつでも歓迎です。

【新たな販売所のご紹介を】

できるだけ多くの方にこのカレンダーをお届けするために、販売所を増やしたいのです。販売を引き受けてくださる方をご紹介ください。A文献センターにEメールや文書でお教えください。

運営委員会議事録(抄)

【8月運営委員会】夏の交流会のためお休み

【9月運営委員会】9月19日(土)

■カレンダーについて
サイズはLPジャケットサイズに決定。作成は、予算内でできる範囲での部数とする。(印刷会社に確認する)

完成は、次回会合をめざすこと!

アナキズム文献センター通信

第12号

発行/二〇〇九年一月二〇日

発行所/アナキズム文献センター

編集/運営委員会

連絡先/東京都新宿区新宿

1の30の12

郵便振替口座/

00850-3-30010

口座名 A文献センター

Eメール/

info@cira-japan.net

定価/一部一〇〇円